

令和3年度 各部・年次等の目標と実践項目

【評価】 4:よくできた 3:できた 2:あまりできなかった 1:できなかった

| 部署 | 主な業務 | 本年度の目標 | 目標達成に向けた実践項目 | 番号 | 数値目標 | 中間評価(各部署内) | | 年度末評価 | | | | | 次年度に向けて | |
|-------------|--|---|--|----|----------------------------------|------------|--|-------|-----|----|----|---|---------|--|
| | | | | | | 評価 | 改善に向けて | 全体 | 部署内 | 4 | 3 | 2 | | 1 |
| 総務 国際 | 行事検討 防災 校内美化・整備 入学のしおり等諸文書作成 | 学校内外の 教育環境の整備 | 1 行事の抜本的な見直し | T | | 3.5 | コロナ対応優先。コロナ対応も参考に 行事を見直す | 2.9 | 3.3 | 7 | 19 | 7 | 2 | ・行事等について、効果的・抜本的な改革には至らなかったが、積極的に見直す雰囲気が出てきて前進した部分はある。学校全体の方針に沿って変更、改革できる流れが大事だと感じた。 ・校内美化の意識を高める仕組・努力・指導を継続していきたい。 ・国際交流はコロナのこともあり、出来ることが限られていた。限られた中でもPTAの協力もあって新たな取り組みができた。海外への短期語学研修は全て中止。 |
| | | | 2 日常清掃からの校内美化活動の推進 | L | | 3.0 | さらに推進する | 3.2 | 3.3 | 12 | 28 | 4 | 0 | |
| | 本校生の短期語学研修 国際交流関連行事 留学生との交流 | 異文化交流・理解 | 3 西オーストラリア大学短期語学研修への参加を促すとともに留学生の受け入れを奨励する | G | | | 現状では実施不可能 | 1.8 | 2.5 | 3 | 3 | 6 | 15 | |
| | | | 4 国内で実施可能な英語研修を充実させる | G | | | 2学期以降に実施予定 | 3.3 | 3.5 | 14 | 21 | 1 | 1 | |
| 教務 | 教育課程編成 教員の指導力向上 校務支援システム運用 「シラバス」作成 | 教育課程編成 | 1 45回生新教育課程の編成 | S | 年5回実施 | 2.0 | 選択科目の種類と設置位置の妥当性を検討していく。 | 3.3 | 3.8 | 17 | 20 | 4 | 0 | ・カリキュラム委員会での検討結果を毎回Garoonを通じて全教員に公開してきたが、何をすれば確定となるのかわからなかった。次年度は、毎回の結果を校務運営委員会で報告し、その後職員会議で報告という流れが必要だと思った。 ・1学期は31名だったが、2学期は47名となった。 |
| | | | 2 授業参観の促進 | T | 参観週間に2回以上 | 3.5 | 授業参観を行った教員は58名中31名。全員が必ず1回は参観するように連日呼びかける。 | 3.3 | 3.3 | 17 | 22 | 3 | 1 | |
| 保健 生徒指導 | 生活指導・交通安全指導 「くすのき」での周知 いじめ防止・対応 生徒会活動の充実 部活動活性化 | いきいきとした規律ある 学校生活の支援とサ ポートが必要な生徒へ の対応 | 1 生活習慣の確立と校内規程の見直し | P | 安全指導学各期1回 事故件数0 | 3.0 | 日々の登校指導は充実し、適宜地域からの苦情にも対応している | 3.2 | 3.6 | 12 | 29 | 3 | 0 | ・安心・安全の教育活動を充実させるため、教職員間の意思疎通を図り、生徒・保護者から信頼される指導を心がける。 ・新型コロナウイルス感染に対する予防指導を徹底する。また、生徒の内面を重視した教育相談の整備を図り、保健環境を充実させる。 |
| | | | 2 諸問題に対して、教師の共通理解と指導の展開 | L | いじめアンケート月1回 いじめ件数0 教員研修会2回 | 3.0 | 休校間のアンケートは実施できなかったが、適切に対応できた | 3.0 | 3.5 | 11 | 27 | 6 | 2 | |
| | | | 3 「心のサポート」や「感染症」に関する情報提供と対応 | L | | 3.0 | 保健だよりの発行等で感染症対策について全生徒への注意喚起はできている | 3.0 | 3.4 | 11 | 24 | 9 | 1 | |
| 進路 ガイダンス | 進路情報提供 進路研修(教員) 進路講演会等運営 社会人基礎力育成 「進路通信」発行 「ガイダンスブック」発行 | 年次回と連携した進路 実現のための効果的な 進路指導體制の確立 | 1 3年次生徒の不安や焦りに対する適切なケアと、それに対応する教員向け研修会や検討会の実施 | M | 随時 研修会・検討会年5回 | 3.0 | 生徒講演会や、「Classi」等の職員研修会など、計画通りに実施できた | 3.2 | 3.7 | 16 | 18 | 2 | 3 | ・変化の激しい「大学入試制度」に対し、「Classi」等を有効に活用して、最新の情報をスピーディーに生徒・保護者に提供していく。 ・「知識・技能」、「思考・判断・表現」、「主体的に学習に取り組む態度」の育成に対応した、きめ細かい指導の充実を図る。 |
| | | | 2 進路通信を発行し、生徒・保護者への情報提供や進路意識の向上に努めるとともに、高校生就労体験事業を通じて社会人としての資質・能力を育成する | L | 進路通信:年8回以上 就労体験事業:生徒の満足度80%以上 | 3.5 | 「Classi」で保護者・生徒に進路通信を配信し、またクラス掲示コーナーを作り、進路通信や進学情報など積極的に配布している。 | 3.3 | 3.6 | 18 | 23 | 3 | 0 | |
| | | | 3 総合的な探究の時間の計画を立て、実践する | S | 発表の場を4回設ける | 3.5 | 計画的に探究学習を行っている。 | 3.5 | 3.5 | 22 | 15 | 2 | 0 | |
| 図書 人権 | 蔵書の整理・拡充 朗読会等行事企画・運営 「学校図書館だより(NORTHLIBRARY)」発行 読書感想文コンクールへの出品 ウェルネスパーク図書館との連携 | 図書委員会を活性化し、開かれた図書館となることで読書活動を推進する | 1 校内では、ビブリオバトル校内大会や朗読会を実施しつつ、校外で、ウェルネスパーク図書館との連携活動を積極的に行う | L | 朗読会:1回 ビブリオバトル:2回 | 3.5 | 2学期以降に実施予定 | 3.5 | 4.0 | 23 | 19 | 1 | 0 | ・生徒主体の活動を継続し、来年度さらに多くの生徒が活用したい図書室作りを目指す。 ・職員対象の人権研修会や人権映画鑑賞会を企画することにより様々な分野における人権意識の向上を図りたい。 |
| | | | 2 「NORTHLIBRARY」を図書館だよりとして生徒配布し、クッシーやHPIにも掲載し、風通しのよい図書館を目指す | S | 年間10回 | 3.0 | 6・7月号発行。図書委員によるPOP作成。図書室前ビロイも有効活用していく | 3.5 | 4.0 | 23 | 17 | 1 | 0 | |
| | 人権HRにおける人権教育の充実 人権教育研修会(教員)等企画・運営 | 豊かな人間性を育てる | 3 人権HRや人権映画会の内容を充実させ、計画的に実施 | P | 人権HR:年2回 人権映画会:1回 | 3.0 | 人権HRは3年次は実施済み、1・2年次は2学期に実施予定。人権映画はコロナ感染対策をして2学期に実施予定 | 3.3 | 4.0 | 16 | 19 | 5 | 0 | |
| | | | 4 全教員対象に人権教育群研修会を実施 | T | 年1回 | 3.0 | 1/3の教員は実施済み、残りは2学期に実施予定 | 3.2 | 3.7 | 15 | 19 | 5 | 1 | |
| 募集 広報 | オープンスクール、オープン・ハイスクール運営 学校説明会訪問 「学校案内」作成 「加古北タイムス」発行 学校HP刷新 | 募集活動と広報活動の充実を図り、受験者数のアップを目指す | 1 積極的な学校説明会(塾・予備校含む)への参加 | L | 年間12回以上 | 2.0 | 新型コロナウイルス感染症により説明会が開かれなかったため、2学期以降に実施予定 | 3.4 | 2.7 | 18 | 10 | 4 | 0 | ・積極的に学校説明会等への参加を行い、加古北の良さをアピールする。 ・HPの更新を日々行い、加古北の日常を発信することによって、受験者増につなげていきたい。 |
| | | | 2 「加古北タイムス」の発行 学校HPのリアルタイムな更新 | L | 年間12回以上 年間220回以上 | 3.0 | 学校HPの更新、「加古北タイムス」発行など、2学期以降も内容を充実させていきたい | 3.7 | 3.4 | 28 | 12 | 0 | 0 | |

「番号」(S~T)の学校経営方針とその内容

S:「生きる力」を育み、生徒一人ひとりの能力を最大限伸ばす「学び」の場の構築

- ア ICTを効果的に活用し、わかる喜びを大切にしたいきめ細やかな指導
- イ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の促進
- ウ 多様な価値観を持つ人々と「協働して主体的に学びに向かう態度」を涵養するための授業づくり
- エ 情報収集力や感性を養うための読書活動を支える学校図書館の活性化と情報活用能力の育成

M:変化の激しい社会の中で、主体的に人生を切り拓き、生涯にわたって挑戦し続ける人材の育成

- ア 職場体験活動・大学研究等を通じて将来の生き方や働き方を見つめるキャリア教育の推進
- イ 多様な他者の考えや立場を理解し、他者と協力・協働して社会に貢献しようとする意識の涵養
- ウ 政治的教養を高め、社会に主体的に関わろうとする意欲・態度の育成

G:国際的視野で思考・判断し、世界に飛躍する人材の育成

- ア 外国語を用いたふれあいや対話、討論の機会の充実による豊かな語学力やチャレンジ精神の育成
- イ 留学生の招致や生徒の海外留学を通じた異文化理解・日本文化の紹介
- ウ 将来、国際社会で活躍・貢献する意欲・態度の育成を目指した行事の充実

P:思いやりの心と規範意識を持ち、共生社会の実現を目指す人間性豊かな人材の育成

- ア 自己をかけがえのない価値ある存在として受け止める自尊感情の涵養
- イ 自他の個性・人権を尊重し、よりよい人間関係を形成しようとする豊かな集団づくり
- ウ 自らの命を守り、緊急時に主体的に行動できる人材の育成

L:地域と連携した安心・安全な学校づくりと学校評価の推進

- ア 学校全体による情報共有と協働して課題解決に向かう組織づくり
- イ 家庭・地域・中学校等への積極的な情報発信と連携した教育活動の展開
- ウ 学校評価の検証と学校改善による組織の活性化の推進

T:教職員の資質向上

- ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた計画的な職員研修の実施
- イ タブレット端末をはじめICT機器を効果的に活用した授業づくりを目指す職員研修と実践
- ウ 教職員の心身の健康と適正な勤務時間の維持により意欲を持って職務に取り組める職場環境づくり

【評価】 4:よくできた 3:できた 2:あまりできなかった 1:できなかった

| 部署 | 主な業務 | 本年度の目標 | 目標達成に向けた実践項目 | 番号 | 数値目標 | 中間評価(各部署長) | | 年度末評価 | | | | | 次年度に向けて | | |
|---------|--|-----------------------------------|-------------------------------|---|----------------------------------|--------------------------------|----------------------|--------------------------------------|-------------------|-----------------------------|-----|-----|---------|----|---|
| | | | | | | 評価 | 改善に向けて | 全体 | 部署内 | 4 | 3 | 2 | | 1 | |
| 1 年次 | 学習・進路 家庭学習習慣の定着 進路情報提供 面談(二者・三者) | 主体的に人生を切り拓き、生涯にわたって挑戦し続ける人材の育成 | 1 | 家庭学習の時間の記録を付ける 定期考査1週間前は全員に記録させる | S | 定期考査ごと年5回以上 | 2.0 | クラスでの声かけの仕方の工夫 | 3.2 | 3.0 | 10 | 10 | 5 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・年次末考査後から春休みかけての期間に、勉強に対する取り組み方を改めて考えさせ、2年次へとつなげていきたい。 ・学校の中心学年という自覚・責任感を持たせる。 ・生徒の主体的な活動を続けていく。 ・心優しい人作り。 |
| | | | 2 | 二者・三者面談を通して、文理選択について考え、自分の将来について考えさせる | M | 二者面談は学期1回以上 | 3.0 | 三者面談の充実に向けて、教員間の共通理解を図る。 | 3.5 | 3.0 | 12 | 14 | 0 | 0 | |
| | 生活等 基本的な生活習慣の確立 いじめ防止・対応 | 思いやりの心と規範意識を持つ人間性豊かな人材の育成 | 3 | 生徒主体(企画・運営)の年次行事の実施 | P | 学期に1回以上 | 3.0 | 計画的にその時間を確保する。 | 3.4 | 3.3 | 11 | 13 | 1 | 0 | |
| | | | 4 | 年次集会やHRで、元気な挨拶、他人への気配り、配慮を呼びかける | P | 年次集会は学期に1回以上 | 3.0 | 年次集会以外の場面でも、年次が全員揃った機会を利用する。 | 3.3 | 3.3 | 10 | 15 | 2 | 0 | |
| 2 年次 | 学習・進路 週末課題・小テスト実施 面談(二者・三者) | 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善とよき細やかな指導の充実 | 1 | 小テストなどを通じ、基礎学力の定着を図る | S | 小テストを実施する | | 2学期には実施予定 | 3.5 | 3.4 | 16 | 15 | 0 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、小テストで基本の定着は少しずつできてきた。次年度は、小テストではない主体的な形で、学力を向上させていきたい。 ・最上級年次となるので、学校をリードしていきたい。 |
| | | | 生活等 基本的な生活週間確立 いじめ防止・対応 | 自他の個性を尊重し、よりよい人間関係を形成しようとする集団をつくる | 2 | 学校行事や部活動、生徒会活動に積極的に参加できる生徒を育てる | P | 学期1回以上、行事等で生徒が中心になって企画実行する | 3.0 | 1学期は2回実施できたので、2学期も2回以上実施したい | 3.4 | 4.0 | 13 | 17 | |
| 3 年次 | 学習・進路 授業改善 週末課題・小テスト実施 面談(二者・三者) | きめ細やかな学習指導の充実 | 1 | | 少人数指導や習熟の程度に応じた指導により、知識・技能の定着を図る | S | ICTを活用した学習活動を年1回以上実施 | 3.0 | 7割程度にとどまっていると思われる | 3.3 | 3.3 | 13 | 12 | 5 | 0 |
| | | | 2 | 生徒の能力・適性や興味・関心、進路希望等を踏まえ、補足的・発展的な学習を取り入れるなど、学力向上に取り組む | S | 公開授業を年1回以上実施 | 4.0 | 7割を超える受講者がほぼ休まず受講していた | 3.3 | 3.3 | 13 | 15 | 1 | 1 | |
| | 生活等 人権LHR 面談(二者・三者) 担任から保護者へ配信 | 思いやりに満ちた人間関係の構築 | 3 | 教科指導をはじめ、あらゆる場面を通して、豊かな人間性を育む学級づくりに取り組む | P | 個人面談学期に2回以上実施 | 3.0 | 気づきを行動に結びつけられている者が増えてきた | 3.3 | 3.3 | 12 | 13 | 1 | 2 | |
| | | | 4 | 保護者、キャンパスカウンセラー等と連携し、生徒の日常生活における変化に気を配る | L | Classiを活用し、保護者へ学期に2回以上配信 | 3.0 | 気づきを行動に結びつけられている者が増えてきた | 3.2 | 3.2 | 11 | 11 | 2 | 2 | |
| 事務局 | 電話・来客等の対応 事務等の事務処理 予算の管理・執行 施設、物品等の維持管理 | 相手の立場に立った対応や経費節減に努め、適切な物品・施設管理を行う | 1 | 受付窓口、電話での迅速で気持ちの良い対応 | L | 電話口3コールまでの対応 | 3.0 | 事務室は学校の窓口でもあるので、今後も一層対応していきたい | 3.4 | 3.6 | 14 | 15 | 1 | 0 | <ul style="list-style-type: none"> ・来客者に対する受付窓口、電話とも迅速な対応ができています。今後、電話機の自動音声応答システムを導入し、より効率性や利便性の向上を図っていく。 ・また、予算の適切な配分を考慮しながら、光熱水費の管理や敷地内の整備等について状況に応じた対応を行なっていく。 |
| | | | 2 | 光熱水費の適切な節減 | L | | 3.0 | 新型コロナウイルス感染拡大の関係で換気を行いながらの空調機使用である。 | 3.3 | 3.4 | 13 | 14 | 3 | 1 | |
| | | | 3 | 敷地内の危険箇所等の把握と迅速な対応 | L | | 3.0 | 今後も危険箇所等の把握と迅速な対応をしていく | 3.2 | 3.2 | 10 | 18 | 3 | 0 | |
| 学校全体として | | 主体的に人生を切り拓き、生涯にわたって挑戦し続ける人材の育成 | 1 | 校訓に基づく教育活動の実施と、生徒の自覚の高まり | M | 学校生活における生徒の満足度80%以上 | 2.0 | すべての学校生活の満足度が、80%以上になるように工夫を重ねている。 | 3.0 | | 9 | 21 | 6 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・「学校評価アンケート」(対生徒)における「本校の行事や部活動についての満足度」について、回答者の82.7%が肯定的評価(大変そうだ、まあそうだ)をしており、生徒は一定の満足感を得られたと考える。 ・地域との交流が殆どできなかった。次年度は実施可能な取組を考えたい。 ・昨年度から始めた「Intercultural Day」を含め、国際感覚を育成する取組を、さらに積極的に行う。 |
| | | | 2 | 地域との関わりや福祉施設への訪問、手伝い、交流を通じた自己有用感の育成 | P | 年2回以上 | 2.5 | 地域公民館でのイベントに参加している。今後も積極的な参加を目指している。 | 2.9 | | 6 | 15 | 10 | 0 | |
| | | | 3 | 加古北イングリッシュイマージョンプログラム(EIP)等を通じた国際感覚の育成 | G | 年1回以上の国際交流行事の実施 | 2.5 | 8月にEIPを実施予定。34名の生徒が申し込みを行った。 | 3.3 | | 16 | 18 | 4 | 1 | |

【学校評議員より】

- ・「ひょうご学力向上研究事業」に取り組んで、生徒に変化はあったか?→一問一答型の発問の解答だけでなく、考察の発表に根拠を示して解答できる生徒も出てきた。
- ・「地域との連携」で、加古川市は高校生とコラボした取組が多く見られるので、北高も市内の活動と連携を図ってはどうか。
- ・関東では、コロナ禍の中でもカナダ等外国と積極的にかかわっている学校も多い。また、オンラインでの海外との交流はコロナ前より盛んで応募も多い。
- ・英語力の向上は「使ってこそ」。海外との交流が回復したら、留学生を積極的に受け入れる等、英語を使う機会を増やしてほしい。
- ・地域は「ウイズコロナ」へ移行しつつある。ボランティア参加等で地域との協力を促進させてほしい。
- ・生徒の心に火をつける(主体性を引き出す)取組を。資料(データ)を実践に結び付けて、「働き方改革」にも留意し、生徒の向上に焦点を当てた取組を。
- ・コロナ禍対応に限らず、インフルエンザ罹患による出席停止等にオンライン授業で対応する等、教育にICTを活用してほしい。
- ・卒業後も北高生のつながりは続いている。今後も生徒が充実した高校生活を送り、その発信が北高の人気上昇につながることを願う。